

松之塔

松之塔

濱田青

宋波香居

D08.03
H
24549

橋之塔

廣田青陵著



橋澄安西那支

畫君仙眉田福

装  
幀

平  
福  
百  
穂  
畫  
伯

名著100選圖書

登 録	昭和	56. 9. 3	年 月 日
番 号	第	24549	
社団 法人	土 木 学		
附 属	土 木 図 書 館		

## 序

橋の一篇は大正十三年一月の『大阪朝日新聞』に掲げたものである。其の第一回が現はれるや否や、中學以來の相知金尾文淵堂主人がやつて来て、一冊の書物にすることを勧められた。併し斯んな短かい者ではと逡巡すると、それでは一つ次に「塔」と云ふ題で書かれてはと云はれて、成る程それは面白からうと答へたが、書物にするとしなないと別問題として、終に書いて見る氣になり、翌十四年の一月同じ新聞に出したのが、次ぎの「塔」の一篇である。斯う云ふ因縁から、かたがた文淵堂の手で出版せられる筈であつたのに、いろ／＼の事情から、岩波書店を

煩はして、今日漸く出すことゝなつたのは私としてせめて此の次第丈けでも、此處に一言して置かなければならぬ氣がするのである。

さて新聞に出たまゝの「橋」と「塔」二篇を一冊に纏めて見ると、其の長さの餘り短か過ぎることは云ふ迄もないのみならず、記述の具合から全體の調子まで、さうも物足らぬ處、面白からぬ處があり、と見え出した。併しとても少々の手入れてはやり切れず、さりとて全然改造新篇となれば、これ亦た今迄の材料丈けでは物になりさうも無いので、終に印刷校正の際に少しばかりを修訂して、再び世間に恥をさらすことゝなつたのが此の小冊子である。元來専門的には何等深い知識を「橋」にも「塔」にも持たない私に、此等に關する深い考察も、面白い記述も出

來よう筈がない。是は私自身に於いても、將來詳しい研究の首途たる「ゼネラル・サーヴェー」に過ぎないものであり、たゞ幸ひ此の小冊子によつて多少なりとも世間の人が、此の風致上、美術上、文學上、將たあらゆる社會生活の上に我々と最も密接なる關係を有する二箇の直角に交叉する地上の建築物に對して、今迄よりも一層深い注意を拂ひ、是を縁として、此の二つの物に向つて更に大なる研究と興味とを惹起することゝなるならば、此の書の目的は已に十二分に達せられたものである。

本文の短かい割合に挿圖を多く加へた。實は之でもなほ不充分を感じるのであるが、體裁の上から少しく遠慮をしたのである。たゞ此のつまらぬ小冊子

を飾つて思はぬ光彩を放たしめたのは、友人太田喜二郎君と福田眉仙氏の筆に成る幾多の挿繪であつて、是は兩畫伯の厚意に深く感佩する外はない。太田君は近く私と朝鮮北支那を一緒に旅行して其の際寫生せられた思ひ出の多い繪を惠まれたが、眉仙氏は曾て支那南北を踏破して『支那大觀』『支那三十畫卷』を作られ、又た期せずして私と同じく支那の橋と塔の畫帖を編まれようとして居られたのを、其の中から私の書中に若干を掲げ、これを快諾せられ、なほ新に筆を揮はれたのであつて、是は私の特に感謝を表しなければならぬ處である。斯の如くにして私の小冊子は、スバロー氏の『橋の書』がブラングウィン氏の挿畫によつて、重きをなすに至つたと、同じ様な結果になれば、之に勝る喜びはない。

附録として日本と朝鮮の古塔表を掲げて、此等を研究する人々の便宜に供した。是は友人梅原末治、島田貞彦兩君の手を煩はして出来たものであることを茲に感謝して置く。なほ私の『橋と塔』に關する一々の詳しい考察や研究は、此の小冊子を發端とし、私の一生を通じて絶間なく繼續し、いつかは世間に見ゆる積りであるが、其の中最近或る雑誌に掲げた熱田の裁斷橋の一篇を最後に附載して橋や塔の研究の興味深い一例を示すことにした。

大正十五年三月

著者

# 目次

## 橋

一	はしがき	一頁
二	天然橋と橋の起源	五
三	橋の天才羅馬人	九
四	「古橋の國」佛蘭西と西班牙	三
五	中世の防護橋	九
六	復興期の家橋	二天
七	波斯の橋	三

塔

八 支那の橋と朝鮮の橋……………壹

九 日本の橋……………望

一〇 鐵橋と混凝土橋……………兎

一一 橋の美と橋の理想……………蝸

一 橋と樓閣と煙突……………叁

二 佛教建築の塔……………亮

三 佛塔と樓閣建築との結合……………三

四 日本の塔 (一)……………壹

五 日本の塔 (二)……………亮

六 朝鮮の塔……………金

七 支那の塔……………九

八 印度及瓜哇の塔……………七

九 西洋諸國の塔……………一〇

一〇 現代と將來の塔建築……………一七

附録

日本及朝鮮古塔表……………(後)一

熱田の裁斷橋……………(後三五)

### 挿圖目次

- 卷首 支那西安灃橋 (福田眉仙君畫)……………
- 一 支那洛陽天津橋斷址 (關野博士寫眞)……………一三七
- 二 伊太利羅馬聖アンデエロ橋……………一二一
- 三 伊太利羅馬ケステウス橋 (太田喜二郎君畫)……………一一一
- 四 佛蘭西ユーム附近「ボンドガール」橋……………一二五
- 五 西班牙セゴヴィヤ水道橋 (ブラングウィン氏原畫)……………一七

- 六 佛蘭西アヴィニヨン聖ヴェネゼー橋 (同上)……………一二三五
- 七 伊太利ヴェネチヤ「リアルト」橋……………一三六
- 八 波斯「フルイカイザル」橋……………一三三
- 九 支那北京附近蘆溝橋 (福田眉仙君畫)……………一三九
- 一〇 支那成都駟馬橋 (同上)……………一三九
- 一一 朝鮮慶州佛國寺青雲橋 (太田喜二郎君畫)……………一四一
- 一二 朝鮮京城市中小石橋 (青陵畫)……………一四三
- 一三 ホイスラー筆「古バッターシー」の橋……………一四三
- 一四 道登宇治橋斷碑 (拓本)……………一四四
- 一五 近江日吉神社本宮橋 (岩井武後君寫眞)……………一四六

一六	周防岩國錦帶橋	………	四
一七	支那北京玉泉山塔	(太田喜二郎君畫)	三、四
一八	印度サンチ東塔	(關野博士寫真)	六、七
一九	大和法隆寺五重塔	………	五
二〇	大和藥師寺東塔	(青陵畫)	六
二一	紀伊高野山金剛三昧院多寶塔	………	八
二二	朝鮮慶州佛國寺多寶塔	(太田喜二郎君畫)	七
二三	朝鮮慶州瞻星臺	(青陵寫真)	八
二四	支那西安大雁塔及小雁塔	(福田眉仙君畫)	七、八

二五	支那杭州雷峰塔	(福田眉仙君畫)	九
二六	瓜哇ボロブドール塔寺	………	九
二七	伊太利ミラーノ大伽藍	………	一〇、五
二八	北米合衆國メトロポリタン生命保險會社建築	………	一三

### 參考圖目次

第一圖	北米ヴァーヂニヤ州天然巖橋	………	本文参照頁 八
第二圖	伊太利羅馬クラウヂウス水道橋	………	三
第三圖	伊太利羅馬ボンテモルレ橋	………	一

第四圖	西班牙ターグス河アルカントラ橋	………	一七
第五圖	伊太利羅馬ノメンターノ橋	………	一三
第六圖	伊太利フイレンツニポンテヴェッキョ橋	………	二六
第七圖	佛蘭西ガウド・パウ河オルテール戰橋 (ブラングウィン氏原畫)	………	二〇
第八圖	波斯イスフワハンゼンデルード橋	………	三三
第九圖	支那山東武氏祠畫像石橋圖	………	三六
第一〇圖	支那北京萬壽山駝背橋	………	三六
第一一圖	支那四川瀘定橋及柘江橋 (福田眉仙君畫)	………	三九、四〇
第一二圖	支那四川瀘定橋 (同上)	………	四〇
第一三圖	朝鮮開城善竹橋 (青陵畫)	………	四一

第一四圖	朝鮮水原華虹門及水門橋 (青陵寫眞)	………	四一
第一五圖	朝鮮濟州島濟州邑北地川虹橋 (澤後一君寫眞)	………	四二
第一六圖	西藏ツワンボ河及錫蘭オオマオヤ河木索橋	………	五三
第一七圖	安藝嚴島神社反橋 (岩井武俊君寫眞)	………	四四
第一八圖	近江日吉神社大神橋走井橋及東照宮橋 (同上)	………	四四
第一九圖	安藤廣重筆江戸兩國橋花火圖	………	四三
第二〇圖	長崎市眼鏡橋	………	四七
第二一圖	豊後宇佐神宮吳橋 (天沼博士寫眞)	………	四七
第二二圖	京都三條大橋及同擬寶珠銘 (島田貞彦君拓本)	………	四七
第二三圖	蘇格蘭フォース橋	………	五一

第二四圖	英國倫敦タワーブリッジ橋	三
第二五圖	佛蘭西巴里セイヌ河諸橋	天
第二六圖	伊太利フイレンツェ市トリニタ橋圖及英國倫敦ロンドン橋古圖	二九號及三〇
第二七圖	ニウギニヤ[コリアリ]土人樹上家屋圖	三〇
第二八圖	支那雲崗及龍門石窟寺塔浮彫及小塔 (關野博士寫真等)	三三
第二九圖	大和室生寺五重塔及近江石塔寺三重石塔 (岩井君寫真)	三六
第三〇圖	朝鮮求禮華嚴寺舍利塔	三〇
第三一圖	朝鮮慶州芬臺寺塔 (青陵寫真)	三〇
第三二圖	朝鮮扶餘唐平百濟塔 (同上)	三〇

第三三圖	朝鮮江原月精寺八角九重塔及敬天寺九重塔	三〇
第三四圖	播磨姫路白鷺城天主閣 (安藤君所贈寫真)	三三
第三五圖	支那北京五塔寺塔及遼陽祐清寺白塔 (關野博士寫真等)	三六
第三六圖	支那河南登封嵩岳寺北魏十五重塔 (關野博士寫真等)	三二
第三七圖	印度佛陀伽椰大塔 (同上)	三六
第三八圖	印度タキシラ[モータモラ]塔 (同上) 及印度ネポール[パード・ガーション]塔	九一〇〇
第三九圖	伊太利フイレンツェ市役所及ヴェネチヤ聖マルコ寺鐘塔	一〇五
第四〇圖	英國倫敦國會議事堂	一〇五
第四一圖	伊太利ピサ斜塔及ボロニヤ斜塔	一〇六

## 附錄插圖

- 第一圖 名古屋熱田裁斷橋（中村直勝君寫真）……………三六
- 第二圖 同上擬寶珠記銘（島田貞彦君拓本）……………三五
- 第三圖 妙心寺春光院堀尾金助及同母木像……………三五
- 名古屋熱田裁斷橋擬寶珠銘……………四〇